

和地ひとみレポート No.434

東大和市社会教育委員会議からの提言

「シニアが生き生きと生涯学習できるまちづくりを目指して」

せっかくの“提言”。多くの人に届くように…

■社会教育委員会議とは

…5月12日、『社会教育委員会議』が作成した社会教育に関する提言が市議会に配布されました。

…この『社会教育委員会議』とは、社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条の規定に基づいて都道府県及び市町村が設置しているもので、その設置目的や職務は以下の通りとなっています。

【社会教育委員会議】

◆目的

社会教育委員は社会教育に関し自治体の教育委員会に助言を行う。

※社会教育とは：(社会教育法第2条より抜粋)

学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションを含む)。

◆社会教育委員の職務

- (1) 社会教育に関する諸計画を立案すること
- (2) 定時または臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べること
- (3) (2)の職務を行うために、必要な研究調査を行うこと

◆委員数など

- ・東大和市の委員数は10人以内 ・任期は2年
- ・委員は以下の分野の関係者より、人数の均衡に配慮して、東大和市教育委員会が委嘱する。
 - 学校教育及び社会教育の関係者
 - 家庭教育の向上に資する活動を行う者
 - 学識経験のある者

◆東大和市の社会教育委員会議開催スケジュール

毎月第3火曜日、年11回(8月は行わない)
公開＝傍聴人の定員は5名
※会議開催スケジュールは各自治体で違う。

…上記の通り、社会教育委員の任期は2年。今回、配布された“提言”を作成した社会教育委員の任期は令和2年5月1日～令和4年4月30日で、この任期期間中の研究テーマ決めから始まり、調査研究を実施し、課題などについての議論を行ったうえでまとめられたのがこの“提言”です。

…今までも、任期ごとに“提言”を策定してきた東大和市の『社会教育委員会議』ですが、今回の“提言”作成期間はコロナ禍だったため、調査などにも苦勞をされたことが、その議事録からもうかがえました。



■主題設定の背景…

…今回の提言のタイトルは「シニアが生き生きと生涯学習できるまちづくりを目指して～シニアが地域の人々とつながる力を育てる～」となっています。
…このテーマを決定する際の会議の議事録を確認すると

◆去年の提言は「子どもの安全・安心」だったが、これから5年10年、東大和市はまだまだ高齢化が進んでいくことを考えると、高齢者と子どもたち、あるいはその子どもたちの親がどういう形で世代交流していくべきか。そういったことを、できれば討議したらどうか。

◆高齢者問題を扱ったことは今まではないが、やはり高齢化時代を迎えているということに着目して、高齢者の社会教育を研究したらどうか。

といった議論を経て、テーマ設定されたことが分かります。実際、“提言”の中では、主題設定の背景と理由について以下のような内容が明記されています。

【主題設定の背景】

①シニア人口の増加

- ・日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎えている。
- ・令和3年9月の65歳以上のシニア人口は、前年より22万人増の3,640万人で日本の総人口の29.1%。
- ・東大和市も例外ではなく、令和3年度の総人口8,4万人に対しシニア人口は2,3万人で総人口の27.2%となっている。

②超高齢化社会の課題

- ・一人暮らしや夫婦二人暮らしのシニア世帯が増加する中、シニアが生きがいを持って暮らしていくための取組が求められている。
- ・その切り口の一つとして、シニアが地域の人とつながり、生きる喜びが実感できるようにするための生涯学習の充実がある。
- ・科学技術が急激に進んでおり、コロナワクチン接種の予約申し込みもインターネットを通じて行われ、「GO TO トラベル」等の施策も行き届かないなど、IT弱者・デジタル弱者などと呼ばれるシニアの生活に影を落としている。シニアが情報化社会で恩恵を享受できるよう対応できる能力を獲得することも、生涯学習の一つの課題だ。

【主題設定の理由】

- ①シニアの生き方に対する考え方や価値観は様々だが、シニアの生涯学習は、地域の人々とのつながりを通して生きる喜びを実感できることが重要な要素。
- ②シニアだけでなく全世代の人々が世代を超えて縦につながることも重要。

(裏面に続く)

■提言の対象範囲と基調

…今回の“提言”のテーマについては、広範囲に及ぶため、以下の範囲に限定し、『社会教育委員会議』の中で各範囲の担当を決定し、調査、研究がすすめられたようです。

【“提言”の対象範囲】

- ①社会教育施設などの活用の充実について
- ②地域活動等の充実について
- ③学校教育と社会教育の連携の充実について
- ④コロナ禍以後の課題の対応について

…また、“提言”では、上記の各対象範囲についての前段として、全体的な“提言の基調”(≒提言の基本的な考え)が以下の通り述べられています。

【“提言”の基調】

(1)「シニアが生き生きと生涯学習できるまち」は、ふるさとである東大和市が魅力あるまちとして、心豊かに発展を遂げるうえで欠かすことのできない要素です。学校教育においては、学校と地域と一体となって、子どもを教育するという枠組みへの移行が期待されており、シニアが持つ知識や能力を発揮していくための仕組みづくりが求められています。

(2)シニアは、支援や福祉の対象というだけでなく、自律的に学ぶ立場でもあると認識しています。シニアを対象とした生涯学習と福祉施策は重なる部分が多いのですが、あえて峻別せず(厳しくはっきりと区別せず)、両者が相互に連携することによって、シニアが生き生きと生涯学習でき、心豊かに暮らせる「まちづくり」が出来るものと考えています。このことから、提言をまとめるに当たっては、教育や福祉などに関わる行政、機関、団体等から、その施策や活動の現状、人材、仕組み、歴史などについて学習し、課題を捉えました。

(3)シニアの性格や暮らし方は多様で、孫の世話をしながらのんびり過ごす姿も「シニアの幸せ像」の一つではありますが、社会的でサークルなどを掛け持ちされている方や、内向的で一人であることが多い、一人では踏み出せないが友人等に誘われて活動に参加する方など、その様態も様々です。シニアのそれぞれの性格等にに応じた生涯学習が求められているものと認識しています。

…このような“提言”というものの中には、『確かに正しいし、その通りだけど、現実的には他の課題もあるよな…』と感じる内容のものもありますが、上記の“提言の基調”を見ると、この“提言”は「これが正しい」というような押しつけ的な内容でなく、現実を正しく、広くとらえて作成されていることが感じられました。特に(3)の内容は、シニア世代の個人個人の価値観や考え方を尊重したうえでの生涯教育という視点を持つての提言であることが分かり、最初にここを拝読したことで、大きな期待を持って、その先を読み進めることが出来ました。

■興味深く、参考となった内容

…“提言”は前述の①～④の対象範囲ごとにまとめられており、それぞれ興味深く、参考となる内容となっていました。

…例えば『①社会教育施設などの活用の充実について』の中では、市内にある社会教育施設＝図書館、郷土博物館などの現状と課題を明らかにしたうえでの提言が書かれていますが、中でも図書館については、興味深い内容でした。図書館の一般展示本(テーマを決め紹介図書を展示する)の取組については、中央図書館の取組を紹介するとともに、より意欲的に取組んでいる東村山市立廻田図書館の取組を調査。さらには『今までは各自、静かに読書や学習をする場所というのが図書館のあり方』ということに対する近年の変化も調査。国際図書館連盟が2019年に「世界一の図書館」に選んだフィンランドのヘルシンキ中央図書館は、全ての人に開かれた出会いの場をうたっているようで、一番目立つ所でコンサートなどを行い、通りかかった人が次々と参加する図書館は、賑やかな場所とみられていること。また、愛知県安城市の市立図書館では、人とのコミュニケーションも情報の一部として、館内での会話や飲食を自由にするなどの取組が奏功していることなどの事例も紹介されていました。…そのほかの対象項目についても、現状と課題が挙げられており、新たな視点で現状を確認でき、参考になる内容で興味深く拝読することができました。

■“提言”がより多くの人に届くように

…この“提言”の中の複数の対象範囲で、『シニアには気軽に立ち寄れる生涯学習の場が近くにあることの必要性』を課題に挙げています。車の運転を卒業し、自転車に乗ることも危ないシニアにとっては、このことは大きなポイントとなるとされています。

…また、『②地域活動等の充実について』では、既存の団体とその活動が紹介されており、また課題として「お世話係」、「地域福祉の担い手としての協力員」が必要となっていることが挙げられています。実は、この“担い手”の課題は、この“提言”の分野に限ったことではありません。

…共働きが当たり前の昨今では、現役世代は自身の家族のことだけで多忙で、地域コミュニティへの参加への余裕はないようです。よって、この“担い手”についても、現役世代以外、すなわちシニアの皆さんや学生の皆さんが参加しやすい仕組みなどを研究する必要がある状況です。

…いずれにしても、この身近なコミュニティに関するこの“提言”がより多くの方の目に触れるようにし、気づきや考えるきっかけにしてもらうことが必要と感じました。現時点では、この“提言”は市のホームページには掲載されていない状況。この“提言”が活かされるような取組みの工夫が必要だと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シトウネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社に企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102